

第3回横濱まちづくりラボ「横浜文化体育館再整備を核としたまちづくり」

開催日時:平成26年9月4日

開催場所:横浜市技能文化会館8階会議室

参加者の構成:

スポーツ関係 6名(5社)、医療・福祉関係 3名(3社)、金融業 7名(4社)、
コンサルティングサービス 5名(4社)、建設・不動産業 9名(7社)、
商社・広告等 6名(3社)、地元協議会等 2名(2団体)

38名(28社・団体)

1. レクチャー「ゼビオアリーナ仙台について」

ゼビオ株式会社 上田様より、民設民営アリーナ施設の先進事例として、ゼビオアリーナ仙台の取組をご紹介します。

【主な内容】

- ・スポーツ用品小売業の現場では、スポーツを「する」ことよりも「みる」という文化が育っていると感じている。スポーツを「みる」、文化を育てるという観点でゼビオアリーナ仙台の運営に取り組んでいる。
- ・ゼビオアリーナ仙台は2012年に竣工した。約4000席の座席とバスケットコートが入るアリーナ面積を確保している。コンクリート床にポータブルフロアを敷くことで多目的なアリーナの利用が行える。また360° LEDリボンビジョンや日本初の6面センターマルチディスプレイ等により臨場感ある演出が可能となっている。
- ・運営にはLLP(有限責任事業組合)を設立し、4名を常駐させている。運営の仕組み、設備の工夫によりローコストのオペレーションを実現している。



2. グループディスカッション

今回の横濱まちづくりラボでは、参加者の皆様にスポーツ施設と隣接することにより相乗効果を生み出す事業について、事前に考えていただきました。グループディスカッションでは、それらを元に、事業間の連携やグループ化による効果の向上について議論を行うとともに、事業化にあたっての課題と対応策について検討しました。

各テーブルで議論された内容(抜粋)

- 文化体育館単体ではなく、大通り公園や民間ビルなどの周辺を含めた機能の複合を考えるべき。
- 子育て、女性、福祉、多世代交流、防災、滞在・宿泊等の観点。
- 高齢化等の課題先進国として、医療施設、研究施設などを連携させた新しい健康サービスを生みだし、世界にアピールする。
- エンターテインメント要素等を取り入れ、集客効果を高める。

廣常啓一氏(㈱新産業文化創出研究所 代表取締役所長)コメント

- ・事業化にあたっては実現性と資金が課題となる。全国の「スポーツ健康都市」の中で、横浜の競走優位性を高めるためには、地域・社会やグローバルな企業を応援できる環境を作ることがキーとなるだろう。また特区なども最大限活用して、特徴のあるまちづくりを考えていく必要がある。

参加者からの声

- ・横浜らしさを見出し、オリジナリティある施設・サービスの実現につなげたい。
- ・多くの意見が出て、今後、コラボを組めるような点もあった。
- ・もう少し話せる時間があればよかったと思う。
- ・バックグラウンドの違うメンバーの意見は面白いが、まとめるのが大変だ。

今後の活動

次回の横濱まちづくりラボは、「横浜市文化体育館再整備を核としたまちづくり」3回シリーズの最終回となります。

今回のグループディスカッションの内容を事業化していく上で必要と思われる課題や対応策について議論します。

○次回の開催予定 9月18日(木) 13:30~17:00

会場:横浜市役所5階会議室

第3回横濱まちづくりラボ プログラム

◇13:45～ 開会あいさつ・主旨説明

都市整備局都心再生課担当課長 庄司 敏雄

◇13:50～ レクチャー「ゼビオアリーナ仙台について」

ゼビオ株式会社 事業開発部門 マーケティングコミュニケーションチーム 上田 元 氏

◇14:10～ 作業説明

株式会社POD 橘 昌邦 氏

◇14:20～ プロジェクト与件説明

都市整備局都心再生課 担当係長 浦山 大介

◇14:25～ グループディスカッション

◇16:00～ グループ発表・総括

◇16:50～ 事務局連絡

◇17:00 閉会